

(様式1)

大 学 名	大阪大学	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	文学研究科(文化表現論専攻、文化形態論専攻)、人間科学研究科(人間科学専攻)、言語文化研究科(言語文化学専攻)		
拠点のプログラム名称	インターフェイスの人文学		
拠点リーダー氏名	鷲田 清一	所属部局・職	文学研究科・教授
プログラムの概要	文化の生成を複数文化の接触面で動的に捉えるとともに、複数文化の錯綜のなかで発生するさまざまな社会的問題にアクチュアルに対応できる、新しい21世紀型の人文学の構想を打ち立てる。		
拠点形成の目的・必要性	異なる複数の国家にまたがる社会問題や、一国内で複数集団の摩擦によって発生している社会問題は、人文学の視点を強く必要としているにもかかわらず、国家・地域・言語圏によって分割された従来の縦割り制度の下にある現在の人文学研究では、その複雑さに十分対応できない。そこで、複数文化の激しい接触のなかで変動する21世紀の社会を的確に捉えるために、二つの新しい知、つまり、異なる複数文化の交差と軌轢を国家・地域横断的に捉える 横断的な知 と、文化の諸次元、とりわけ研究者と問題発生現場、専門家と一般市民とを架橋する 臨床的な知 を核とするものへと、人文学を構造変換するためのプログラムを設計する。		
研究拠点形成実施計画	諸文化のインターフェイスという相に焦点を定め、既存の学問領域を横断するかたちで、横断的な知 と 臨床的な知 による研究を推進する。 横断的な知 については、「交錯する世界」「縫合される日本」「越境する芸術・文化」という3研究グループを組織し、臨床的な知 については、臨床とフィールドの知およびコミュニケーション文化の深化という視点から臨床的理解と公共的対話のモデル形成に取り組む「臨床と対話」という研究グループを組織する。そして、それら4グループを、研究と教育の両面において有機的に連携させていく「研究・教育開発室」を設置し、《インターフェイスの人文学》への人文学の創造的変換のプログラムと方法論の設計に取り組む。その成果については随時、国際会議・シンポジウムのかたちで公開する。		
教育実施計画	「研究・教育開発室」を中心に、上記の研究活動と大学院教育・留学生教育との、教育カリキュラム上の連携を図りつつ、《インターフェイスの人文学》を研究・教育や社会の現場で担える人材の訓練プログラムを作成・実施する。本研究に関わる国内外の優秀な若手研究者を、各研究プロジェクトに従事する研究員として募集する。メディア専門スタッフによるメディア・リテラシーの教育を行い、マルチメディアの活用による研究・調査・公表の能力を身につけた人材を養成する。《インターフェイスの人文学》のプロジェクトを文字どおり問文化的に推進していくために、アジアを中心とした各地の教育機関に海外研究・教育交流拠点を設置する。		

インターフェイスの人文科学

